



Since
1965 Creativity
and
Curiosity

福井高専

青武台だより

令和7年
11月25日発行
No.238

独立行政法人国立高等専門学校機構 福井工業高等専門学校
National Institute of Technology (KOSEN), Fukui College

大志いだける
若き目を
(校歌より)



CONTENTS

P2 ▶ はじめに

P9 ▶ 第60回高専祭

P16 ▶ 学校通信

P6 ▶ 第60回体育祭

P12 ▶ 活躍する仲間

はじめに 一総務・企画主事より

福井高専創立60周年に寄せて

総務・企画主事 中谷 実伸



各種媒体によりご存知の方も多いかと思いますが、昭和40年創立の福井高専は、今年60周年を迎えました。人間でいえば還暦の年となります。

本校は創立時、機械工学科、電気工学科（平成17年に電気電子工学科に改称）、工業化学科（平成7年に物質工学科に改組）の3学科でスタートしました。昭和45年に土木工学科（平成5年に環境都市工学科に改組）、昭和63年に電子情報工学科を増設し、現在は5学科体制となっています。また、平成10年には専攻科が設置され、さらに高度な工学教育の充実を図ってきました。この60年の間に社会に送り出した卒業生・修了生は9800人を超えていました。

この60周年を記念して、10月8日には本校大講義室にて、60周年記念式典ならびに記念講演が盛大に開催されました。

記念式典には、衆議院議員稻田朋美様（代理として日本秘書がご臨席）を始めとして、福井県知事、鯖江市長、越前市長、南越前町長、美浜町長、国立高等専門学校機構理事の皆様（一部代理の方）や、本校教育後援会ならびに進和会、日吉会、地域連携アカデミアからもご参加をいただきました。本校教職員は大講義室にて、学生は各教室にてオンラインで臨席いたしました。

まず式辞として、長谷川章校長より、本校の歴史の紹介、ならびに今後の情報化社会を見越した来年度からの改組について述べられました。次に来賓の皆様より、本校の将来に対する期待に満ちたご祝辞をいただきました。続いて祝電が披露され、最後に国立高等専門学校機構の谷口功理事長より、関係機関の皆様への謝辞があり（梶山理事代読）、校



歌を演奏して、式典は厳粛に終了いたしました。

その後、記念講演会が行われました。講師として本校機械工学科OBである岩堀圭吾氏（NECO・no・Te エンジニア株式会社代表取締役）をお招きし、「PM/PMO 人材育成の重要性」という演題でご講演いただきました。岩堀氏は本校のリサーチアドミニストレーターとしてもご活躍いただいております。ご講演では、ご自身の体験を踏まえながら、これから社会で必要とされる人材像について、ユーモアを交えながら語っていただきました。

さて、創立60周年を迎えるにあたり、本校は大きな改革を行います。現代における高度情報化教育への要請を背景に、分野横断型教育を推進するとともに、情報技術教育を充実させることを目的とし、現行の5学科を「未来社会デザイン工学科」の1学科5系9コースとする改組を、来年度より行います。詳しくはホームページやYouTubeをご確認いただければと思います。

今回の60周年記念式典を実施するにあたり、各方面に多大なるご支援とご協力、また多額のご寄付を賜りました。心より感謝申し上げます。いただきましたご芳志につきましては、今後の本校の教育研究活動に、大切に活用させていただきます。

教育界・産業界をはじめとした本校に関係していただいた皆様。本校の歴々の教職員の皆様。そして卒業生を含む学生の皆様や教育後援会、保護者の皆様。数えきれない多数の皆様のおかげで、福井高専は60周年を迎えることができました。心より厚く感謝申し上げます。

61年目へ、そしてその先へ。今後も引き続き、ご支援ご鞭撻を賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。



はじめに 一教育後援会会長挨拶一

未来を担う技術者のために

教育後援会会長 稲 裕樹



この度、福井高専教育後援会の会長を務めさせていただきましたことになりました稻裕樹と申します。皆様の温かいご支援とご期待に感謝申し上げるとともに、その責任の重さを痛感しております。会長としての私の目標は、福井高専がこれからも地域に信頼される教育機関であり続け、学生たちが安心して学び、成長できる環境を整えることです。

現代の社会は急速に変化しており、その中で技術者の役割はますます重要になっています。そのため、私たち教育後援会は、さまざまな考えを持つすべての学生が、その可能性を最大限に発揮できるよう支援することを目指しています。地域の企業や団体との連携を強化し、学生が実践的な技術を習得できるよう努めます。卒業後は地域の発展に貢献できる環境を整え、学生たちが安心して学び、成長できるようサポートします。また、学生が世界で活躍できる技術者として成長するために、国際交流プログラムを推進し、最新の技術を学ぶ機会を提供します。学生たちが安心して学び、成長できる環境を整えることが私たちの使命であり、皆様の温かいご支援が何よりの力となります。

学生の皆さん、皆さんが技術者として成功するためには、コミュニケーション力を向上させることが非常に重要です。円滑なコミュニケーションは問題解決能力や協力の精神を育む基盤となり、職場での成果やチームワークに欠かせません。さらに、国際的な視野を広げることの重要性も強調したいと思います。世界の動向に目を向け、様々な国の文化や価値観を理解することは、グローバルな視点を持つ技術者として成長するための鍵と

なります。そして、社会人としての自覚を持ちながら責任感を持って行動することで、地域社会や国際的な舞台で活躍できる技術者として成長することができます。これらの取り組みを通じて、皆さんのが将来のリーダーとして活躍できるよう全力で支援します。

最後に、後援会の皆様には、今後とも変わらぬご支援とご協力をお願い申し上げます。皆様とともに、福井高専のさらなる発展を目指し、力を尽くしてまいります。



はじめに 一各学年担任からー

体調管理に努めてください

1年担任 青木 宏樹

この原稿を書いているのは10月1日ですが、本日も鯖江市の最高気温が27°Cと、真夏日（最高気温30°C以上）にせまる勢いでした。午前中は雨でしたが、午後からは晴れていたので、午後の授業はグラウンドで行いました。雨の影響もあり、秋とは思えない蒸し暑さで、授業を受けていた学生さんも水分を多く摂っていました。気象庁のデータによると、今年の福井の夏場（6～8月）の猛暑日（最高気温35°C以上）は34日、真夏日は72日もありました。私の周りにもこの夏の異常気象により体調を崩す人が多くいました。また、せっかく夏場を乗り切っても、秋のこの時期に厳しい残暑で体調が優れない人もいるでしょう。後期の授業が始まっていますが、学生の皆さんの体調が心配な今日このごろです。

気温が高い日が続き、体温が高い状態が続くと睡眠にも多大な影響を及ぼします。室内であってもこまめな水分補給を心がけ、エアコンを利用し、適切な室内温度にすることを意識してください。秋に体調不良をうったえる人が多いことは知られていますが、残暑が厳しい昨今の環境もその要因の一つといえるでしょう。体調管理のためには質の高い眠りは欠かせません。質の良い眠りにつけるように、寝床内温度や湿度といった睡眠環境を整えてください。睡眠習慣が改善されれば、それに伴い、食習慣をはじめとした生活習慣も改善されていきます。是非学生の皆さんには、よい睡眠習慣を獲得し、生活習慣を整え、健康管理に努めていってもらいたいと思います。

自信はいかほどですか？

2年担任 松井 一洋

2年生に進級して半年が過ぎました。それぞれの学科時間割の中で専門科目は科目数が増え、その学習内容はより具体的に、専門的になり、昨年度よりも一段と難しくなったと思います。語句や意味を覚え

る科目もありますが、物理や数学で学習した内容を利用する科目も多くありませんか？一般科目の内容が十分理解できていなければ、たとえ専門学科の科目に興味関心があっても、その内容を理解しきれないことがあります。科目と科目を結び付けることで、苦手な科目でも少し前向きに取り組めるようになるかもしれません。学習へのモチベーションを高めていきましょう。学習内容を理解することは成績評価につながります。そして成績評価が上がることは自分自身の中で大きな自信になります。

勉強以外では、2年生はゆっくりではあるものの、進路についても考えることをスタートする学年でもあります。もちろん、進路についてのイメージはまだ曖昧な学生も多いと思われます。校外研修では、ただ見るだけでなく、働くことを意識して自分の中のイメージと照らし合わせてください。イメージとの違いに気づいたり、より鮮明にイメージすることで将来を設計し進路を選択する際の自信につながります。3年生の研修旅行、4年生のインターンシップをより良いものにするため、校外研修で将来を考えるきっかけにしましょう。

これから皆さんは大小さまざまな選択をすることになります。その際に、自信をもって選択できるよう学生生活を送ってください。

「じぶん」について 知ることが大事

3年担任 樋口 直也

就職活動や起業家精神を話す際、「0から1」、「1から2」という言葉を耳にすることがあります。

「0から1」とは、世の中にまだ存在しない新しい価値や事業、アイデアなどをゼロから生み出すことを指し、「1から2」とは、すでに存在するものを改善・拡張したり、規模を拡大したりすることを指します。生活のなかで使うものは「0から1」、「1から2」を経て、みなさんが使っています。

就職活動をするとき「0から1」の仕事に就こうと思い行動するか、「1から2」の仕事に就こうと思

い行動するか決めなければなりませんが、4年生の後半には方針を決めなければなりません。その上、その仕事が自分に向いているかと言う問題についてもわかった上であります。

本校では、研修旅行、キャリア教育セミナーなどを通じて仕事について触れ、どのような仕事に就こうか考えるきっかけにしてもらい、インターンシップを通じてその仕事が向いているかを知ってもらいたいと思う気持ちもあり、行事が行われています。

君たちの年代では味わえない研修旅行、学内で実施するOB、OG多数のキャリア教育セミナー、2週間程度のインターンシップなどの経験を有意義なものとし、今後に活かしていって欲しいと思います。

自分らしい未来へ ～進路選択の大切な時期を迎えて～

4年担任 米田 知晃

福井高専での学生生活も折り返しを過ぎ、4年生の皆さんは進路選択に向けた大切な時期を迎えています。夏休みのインターンシップや9月末の体育祭など、社会や仲間と関わる経験を通じて、自分の将来について考えることが増えたのではないでしょうか。

高専の学生への社会からの期待は、これまで以上に高まっています。実践的な技術力と柔軟な思考力を持つさんは、多くの企業から必要とされています。特に生成AI元年と呼ばれる今、社会は大きく変わりつつあり、新しいチャンスが広がっています。技術と創造性を組み合わせられる高専生だからこそ、この変化の中で新しい価値を生み出していく可能性があります。

高専では、5年生の前半に多くの学生が進路を決めることになります。就職活動は5年生になる前から本格化し、進学の場合も5年生進級してすぐに実施されます。だからこそ、この4年生の後半が、自分の将来をじっくり考え、準備を始める大事な時期なのです。

大学・専攻科への進学でも、就職でも、新しいステージで自分らしく活躍できるよう、納得のいく選択をしてほしいと思います。今の取り組み次第で、

想像以上に大きく成長できます。迷うこともあると思いますが、一歩ずつ、自分を信じて進んでいってください。皆さんのが自分らしい進路を見つけられるよう、私たち教員も全力でサポートします。未来は、皆さん自身の手で切り拓いていけるものです。

あなたは指數関数的に成長しています

5年担任 堀井 直宏

今年度も、本校学生に対する企業からの求人意欲は非常に高いものでした。進学に関しても、各科でおよそ半数の学生が編入学を希望し、高専からの強みを活かして、自らの将来の関心を見据えながら難関大学を含めた挑戦を行ってくれました。

私が進路指導を担当していて印象的だったのは、就職・進学のいずれにおいても「自分が積み上げてきたこと」「将来やってみたいこと」を言葉にまとめる段階で、多くの学生が頭を抱えていた点です。一方で、学業や語学の習得等に地道に取り組んできた学生、課外活動の挑戦から喜びや挫折を経験した学生、あるいは長く続けてきた趣味を持つ学生は、その分野や内容にかかわらず、説得力をもって自分の歩みと将来像を言語化できていたように思います。

取り組みを始めた当初や途中の段階では、必ずしも将来を意識していたわけではないでしょう。しかし、時間をかけて挑戦を継続してきたという事実は、時間差を伴ながらも確実に結実していきます。5年生の担任として、学生が歩んできた道を文章や面談を通じて追体験させてもらう中で、そのことを改めて実感することができました。

下級生の皆さんに強く伝えたいのは「成長は指數関数的である」ということです。今は努力しているのに成果を実感できない人も、成長を大きく感じられる“しきい値”が少し先に待っています。勉強や部活動、趣味などで悩みながら続けている挑戦を、ぜひ投げ出さずに継続してください。積み重ねた知識や経験は、将来の進路を考えるときに、遠くまで見渡すための確かな土台となってくれるはずです。

第60回体育祭

■ 聴覚を刺激された体育祭

学生主事補 橋本 賢樹

今年度体育祭のサポートをさせていただきました。当初体育祭といえば、競技の一瞬一瞬の躍動感から目に映る光景が強く記憶に残るものと考えていました。しかし実際に準備段階から体育祭当日、そして片付けまでを見届けさせていただき、振り返ってみると、予想していたものとは大きく異なり耳から得た多くのことが思い起こされます。

まず、準備段階における実行委員幹部5名の穏やかで落ち着いた声です。彼らは普段私との打ち合わせの際は常に物腰が柔らかく丁寧に対応してくれていましたが、応援団長・デコレ長や約100名の実行委員をまとめる場面では、その穏やかさを保ちながらも引き締まった声で的確に指示を出していました。その時々の声はとても凜々しかったです。夏休み中には、応援団の元気なかけ声や太鼓の重厚な音が静かな学内に響き渡っていました。音を聴いただけで大きな活力をもらい、本番が待ち遠しくなっていたことを覚えています。体育祭当日には、開始を飾る吹奏楽部によるファンファーレも印象に残っています。小雨が降る中でもいつもと変わらない最高のパフォーマンスで見事にグラウンドが華やかになりました。さらに競技中や体育祭翌日の片付けの際には学生同士の笑い声が至るところで聞こえてきました。夏休み中に会えていなかった友人との楽しそうな話や片付け中に体育祭を振り返っていた話を耳にし、勝手にニヤニヤさせていただきました。

以上のように、今年度の体育祭では視覚だけでなく聴覚を通して多くの感動や喜びをいただきました。来年度の体育祭でも福井高専に関わる全員がより多くの刺激を得られる行事となることを願っています。学生のみなさん、本当にお疲れさまでした。

■ 体育祭を終えて

学生会体育長 物質工学科4年 橋本 凜太

今年の4月、僕は学生会に入り、体育長という役職を務めることになりました。それまでは、学生会や体育祭という存在を自分の学校生活の中でほとんど意識しておらず、初めのうちはわからないことばかりで不安も多くありました。しかし、先輩方や幹部の同級生の支えもあり、無事に乗り越えることができました。当日は天候には恵まれなかったものの、例年に劣らない素晴らしい体育祭を開催することができました。

今年は、新しい競技を2つ準備しました。雨の影響でそのうち1つは実施できませんでしたが、もう一方の3年生競技「延結び」は無事に実施することができました。3年生全員が参加する形とはなりませんでしたが、その分、応援団の皆さんに協力していただき、学年の枠を超えて一体となって楽しむ姿を見るることができました。また、1・2年生の競技は、ギリギリながらもグラウンドで実施することができ、初めて体育祭に参加する1年生、二人三脚リレーを楽しみながらも苦戦する2年生の姿を見て、体育長としてのやりがいを強く感じました。そして毎年恒例の「応援・デコレ合戦」では、応援団の迫力ある演舞やデコレーション作品が会場を大いに盛り上げてくれました。さらに、雨で中止となつた4年生競技「大旗リレー」の代わりに、4年生が個性的なコスプレを披露し、会場は笑顔と歓声で包まれました。

最後に、実行委員の皆さんをはじめ、主事団の先生方、そして体育祭の開催にお力添えくださった教職員の皆様に心より感謝申し上げます。





■ 体育祭に向けた、当たり前だった毎日

機械工学科3年 鈴木智大

今年の体育祭を通して、私は「当たり前」が消えていく儚さを知りました。夏休みの応援練習は、最初は面倒だと感じていました。しかし、炎天下の中で友達と振り付けを覚えたり、先輩方と一緒にご飯を食べたりするうちに、次第に練習に夢中になっていきました。休憩中には、先輩方のふとした優しさに触れることもでき、面倒だと思っていた練習が、いつの間にか自分にとってかけがえのない居場所になっていました。体育祭の1週間前からは、朝から晩まで練習が続きました。赤いTシャツをみんなで揃えたり、変なノリや名言が飛び出したりと、言葉では表せないほどの貴重な経験を積むことができました。迎えた体育祭当日は、天気予報通りの大雨。本番は体育館で行うことになりました。最後の体育館での練習では、外とは違って大声や足音が響き渡り、迫力がありました。赤組全員が優勝を目指し、比べものにならないほどの大声で練習に取り組みました。本番では、無我夢中で踊り、赤組が一体となっているのを肌で感じることができました。結果は2位でしたが、チーム力では間違いなく赤組が一番です。体育祭が終わり、朝から晩まで練習していた日々が「当たり前」だったのに、今はもう練習もありません。朝になると、練習がないことに気づき、寂しさだけが残ります。当たり前だった毎日は、もう戻ってきません。この経験を通して、私は「当たり前」を大切にすることの意味を学びました。これから的人生でも、この気持ちを忘れずに生きていきたいと思います。



順位 部門	1位	2位	3位	4位	5位
競 技	黄組	赤組	白組	緑組	青組
応 援	黄組	赤組	緑色 白色		青組
デコレ	黄組	赤組	白組	青組	緑組
総 合	黄組	赤組	白組	緑組	青組

第60回高専祭

■ 高専祭の開催報告とお礼

学生主事補 野元 昭宏

本年で60回目となる高専祭が10月17日から3日間にわたって開催されました。

学生みんなで熟考した今年のテーマ、Innovation（革新）、Nexus（つながり）、Zeal（情熱）、Momentum（勢い・推進力）の頭文字をとった「INZM」のテーマのもと、パワフルに挙行されました。

前日のクリーン大作戦を皮切りに、多くの催し物、最後は花火で幕を閉じ、翌日のお片付けまでの一連の作業では、大きなトラブルもなく本当に楽しい高専祭でした。実行委員の学生さん達は春から話し合いをスタートし、勉強、試験、体育祭も並行して進められ、最後の清掃まで清々しい程の頑張りでした。今年だけではないものの、頭の下がる思いです。

いくつか行事を紹介しますと、ディベートコンテストでは楽しくも厳しい?応酬が繰り広げられ、教員も感心させられる意見が続出でした。周りが納得する主張の展開は、企業、アカデミックに関わらず、これから益々重要になると思います。また新聞にも取り上げられましたが、ノーベル賞受賞者の湯川秀樹先生の御講演資料の展示、さらに学校紹介、進路相談も試みられ、多くの方々に御来訪頂きました。

今年は学生発案の募金活動もあり、ステージではボディービル大会も開催され、鍛え抜かれた筋肉が惜しまことなく披露されました。吹奏楽部の息の合った気高き演奏が響く中、学生さんが考え抜いたお料理もたくさん供され、私もお腹一杯になりました。

このような素晴らしい会は、多大なサポートあってのこと、御協力いただいた企業様、御近隣皆様、日頃から厳しく御指導頂いてます先生方、慈愛あふれる御家族様に深く感謝申し上げます。また他の仕事と並走しながら裏方として尽くして下さった事務職員皆様に心から御礼申し上げます。

■ 高専祭実行委員長になって

学生会高専祭実行委員長 環境都市工学科4年 高嶋 加凜

みなさん、高専祭はいかがでしたか？楽しんでいただけたらとても嬉しいです。今年の高専祭は60回目でした。こんな特別な高専祭に実行委員長として携わることができて身に余る思いです。

昨年は高専祭実行委員の企画部門の1人として高専祭に携わりました。そのときはまさか自分が実行委員長になるとは思ってもいなかったので、人生何があるかわかりません。今年の高専祭は、昨年と同様メインステージを第一体育館としたため、一昨年以前の高専祭を知っている方の中には物足りない思いをした人もいたのではないでしょうか。私が実行委員でなかつたら、物足りなく感じていると思います。そんな中でも高専祭を盛り上げてくれたダンス同好会、MMCや企画部のみなさんには頭が上がりません。

実行委員長になって、楽しい高専祭の後ろにはたくさんの方々の支えがあるということに気づきました。施設の使用許可をとったり、音響の会社の方と連絡をとったりと、見えないところでたくさんの人の協力があります。何事にも影で支えてくださる人はいると思っていましたが、高専祭には想像以上の方の協力の上で成り立っていたのだと知りました。思っていたより実行委員長の仕事は大変で、何度も投げ出したくなりましたが、実行委員のメンバーや先生方の支えでやりきることができました。みなさんには感謝しかありません。本当にありがとうございました。来年の高専祭もよろしくお願ひします。



■ ディベートコンテストを実施して

学生会文化部門長 電気電子工学科3年 中村 梨乃

高専祭イベントとして開催した今年度のディベートコンテストは、たくさんの方のご協力のおかげで成功に収めることができました。

私は今年度のディベートコンテストを運営する部門長となりました。当初は、その仕事の多さや責任の重さを重く認識できていませんでしたが、主催者としての計画、会議の実施、進捗の共有といった作業を進めてゆくうちに、想像以上に大変で、細かく計画をたてる重要性を痛感しました。ディベートコンテストが高専祭のイベントであるため、実行委員としてもかかわることになりましたが、早朝や夜間の会議に参加し、イベントを運営する責任の重さを感じたことは、私自身にとって貴重な経験になりました。

コンテストの実施においては、コロナ禍以前の形式に戻すことを目指し、ディベートテーマを明確な肯定・否定の形式で設定し、討論しやすい流れを作れたことが大きな成果となりました。1~4年生での体育館実施は叶いませんでしたが、当日は弁士たちが相手の主張を真剣に聞き取りながらメモを取り、質問に対してユーモアも交えて的確に応じる姿を見ることが出来ました。参加者全員にとって、知識や論理的思考力を深めるとともに、楽しく充実した時間になったと思います。

この経験を活かし、次年度開催するとなった際には、今年の反省点を踏まえてよりスムーズな計画を立てることを目指していきたいです。また、テーマについても今までにない新しい視点を取り入れるなど、さらなる質の向上と充実したディベートコンテストを実施できるよう尽力したいと考えています。





活躍する仲間

令和7年度福井工業高等専門学校研究奨励一覧

申請者		研究題目	指導教員	交付金額(円)
環境システム工学専攻 2年	増田 悠雅	ブレビバチルス属細菌の高活性な遺伝子 発現プラスマドベクターの開発	松野 敏英	100,000
機械工学科 2年	糟谷 穂佳	切削加工ドリームコンテストの参加に 向けた取り組み	林田 剛一	100,000
環境都市工学科 2年	播磨 祐吾	小中高生を対象としたイベントを通して どのような意識変化がみられるかの研究	津野 佑規	92,808
機械工学科 3年	西野 寛瑛	(全国高等専門学校ロボットコンテスト) Aチーム 高専ロボコン出場ロボット 「疾すぎたサンタクロース」	千徳 英介	150,000
機械工学科 3年	坪田 圭悟	(全国高等専門学校ロボットコンテスト) Bチーム 高専ロボコン出場ロボット 「オペレーション・KAGUYA」	亀山建太郎	150,000
合 計				592,808

令和6年度福井工業高等専門学校研究奨励概要報告

■ 建築コンテストに出場する作品製作の取り組み

環境都市工学科3年 中野 巴葵

建築関係のコンテストに取り組むことは今回がはじめてで、わからぬことがたくさんありましたが自分なりに調べたり、また先生に聞いたりして作品の製作を進めていきました。特に模型の作成は、材料の選定から自分で行い、縮尺の考え方やどのように表現する必要があるかを考えながら模型を作成し、なんとか作品を完成させることができました。作品制作の過程では、建築の授業で学習している知識を応用する場面が多く、深い知識の定着が必要であると感じました。今後も機会があればコンテストに作品を応募し、建築計画やデザインの考え方を学習していきたいと考えています。



■ 多機能避難ベスト THE BEST 10 returns ～商品化に向けた新たな挑戦～

環境都市工学科4年 新井 葵々

私たちは高専防災減災コンテストに向けて、防災に関する活動を行ってきました。地域の方との防災について意見交換や防災イベントへの参加から得た考えを、多機能避難ベストという防災グッズに詰め込みました。しかし予選で落選してしまい、福井高専ビジネスアイデアコンテストを最終発表の場として活動を続けてきました。本選に向けてビジネスアイデアコンテストのメンターの方と話す中で、実現可能であるか、本当に求められているものか、という点をかなり重視するようになりました。誰も買うことがなければ、どれだけ良い商品でも意味がありません。この考えを軸にこれからも活動を続けていきたいです。

■ 热中症予防への遺伝学的アプローチ

物質工学科卒業生 大西 耀絢

近年の気候変動により夏に運動をするにおいて、熱中症のリスクが以前より高まっています。そこで、私たちは、熱中症と遺伝子の関係に着目し研究を始めました。

遺伝子型を指標にして自分の熱中症へのなりやすさ・なりにくさを客観的に知ることができれば、リスクを回避する上で意義があると考えました。PCR法や塩基配列決定法により遺伝子型を決定したり、熱中症アンケート作成などを行いました。

成果は、2024年12月8日に開催された日本動物学会中部支部発表会で発表しました。



■ 高専 GCON2024 に参加する

環境システム工学専攻2年 三池 遼香

私たち4名は「高専 GCON2024」というコンテストに挑戦して「ダイバーシティ & インクルージョン奨励賞」を受賞しました。このコンテストで私たちが提案した内容は「微生物燃料電池を利用した持続可能な森林資源の利用」です。読者の皆さんには、何か作ってみたいモノ、何か調べてみたいコト、はありますか？きっとそれは研究への第一歩です。福井高専にはいろいろな先生がいます。私たちは物質工学科の松野先生と一緒に「微生物燃料電池」を楽しく研究しました。私たちの研究が気になった学生さんは一緒に研究しませんか？



■ 高専ロボコン出場ロボット「ニシヤマ宅配便」

機械工学科5年 石川 翔月

高専ロボコン2024に出場するロボットを製作しました。今年の競技では、ロボット1が遠くのエリアにロボット2を飛ばします。ロボット2を着地エリアへ着地させたり、ロボット2がボールなどのアイテムをロボット1へ届けることで得点できます。

Aチームでは、西山動物園にいる動物をモチーフに、「レッサーパンダ」、「テナガザル」、「クジャク」の3台のロボットを製作しました。ロボット製作では各動物の動きを参考に機構を製作し、動物の外見を再現することにこだわりました。Aチームは地区大会でデザイン賞を受賞することができました。

■ 高専ロボコン2024に出場するロボットの製作

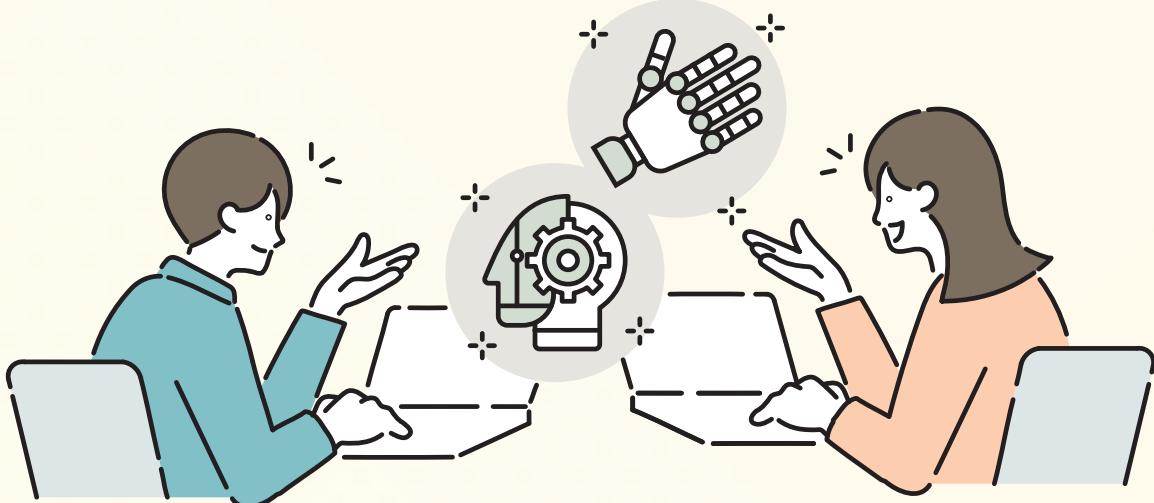
機械工学科4年 角 泰輔

全国高等専門学校ロボットコンテスト2024に出場するためのロボットを作成しました。また東海北陸地区大会に出場しました。

Bチームでは物語をベースとしたロボット作りを行いました。うちゅうのじゅーす屋さんをコンセプトに競技中に物語とジュースを完成させることを目標にしました。

ジュースの容器に見立てたロボット1に、氷やゼリーに見立てたボールをロボット2が投げ入れることで、競技では得点となりジュースは完成します。

目標は何とか叶い最後にはジュースを完成させることができました。また地区大会特別賞に選ばれました。



全国高等専門学校体育大会

■ 昨年のリベンジ

陸上部 機械工学科3年 酒井 康輔

私たち陸上部の6名は大分県のクラサドーム大分で行われた全国高専大会に遠征し、私は円盤投と砲丸投に出場しました。昨年も同じ競技に出場し、円盤投3位、砲丸投7位に入賞しました。この瞬間から私は「来年は円盤で2位以上をとる」と決心し、その気持ちのままに試合に臨みました。序盤から一定の記録が出ていましたが、思いの一投が放たれず、昨年と同じ3位という結果に終わりました。しかし、自己ベストを更新することができたのは大きな収穫でした。砲丸投は、シーズンベストを残せましたが、結果は5位でした。昨年と比べて2種目とも記録としてはよい結果でした。顧問とチームメイトのサポート、応援のおかげもあり、こうした結果につながったと思います。来年は陸上部全体でより良い結果を残せるよう、一層、練習に励みたいです。



■ 第60回全国高等専門学校体育大会に参加して

剣道部 機械工学科4年 宮田 慶生

私は8月30日、31日大牟田で開かれた全国高専大会剣道競技の団体に参加し、準優勝という結果を収めることができました。

去年の団体では予選リーグで敗退してしまい、その悔しさをばねに1年間稽古に励んできました。前回大会に続き大きな緊張を感じましたが、その中で日々の練習の成果を発揮できたと感じます。

初戦から一人一人が「勝つ」という気持ちを強く持ち、勝つためにどう試合を開くべきかを考えながら臨むことができました。一方、決勝では大きな差をつけられて敗れ、悔しさも強く残りました。

今大会を通して改めて全国大会のレベルの高さを実感し、自分自身だけでなくチーム全体に多くの課題があることを痛感しました。

この経験を活かし、来年福井で開かれる全国大会では必ず優勝を勝ち取れるよう、日々の稽古に励みたいと思います。



■ 全国高等専門学校体育大会（水泳競技）に参加して

水泳部 電気電子工学科5年 谷口 栄弥

8月23・24日に、全国高専大会の水泳競技が鹿児島で開催され、出場してきました。僕自身は最後の全国高専大会なので練習を去年よりも多めにし、大会に臨みました。大会本番では緊張しましたが、普段の練習を信じて泳ぎ切ることができました。出場した種目は200m自由形と4×100mのフリーリレーでした。また、全国から集まった選手たちの泳ぎを間近に見て、技術や気迫の差を感じました。200mに関しては、100mの地点で差があまりなく、抜けそうだと思いましたが、思うように追いつけず3位という結果に終わってしまいました。またフリーリレーに関しては、全体でみると最下位でしたが個人のタイムではベストに近いタイムで少し安心しました。完全に満足のいく結果ではありませんでしたが最後に良い思い出になってよかったです。



学校通信

令和7年度 第1回学生表彰受賞者

校長賞

4年間(4回)学業成績優秀者

電子情報工学科5年 小川 拓也	物質工学科5年 音 羽矢可	環境都市工学科5年 松田 岳
電子情報工学科5年 片岡 志菜	物質工学科5年 紺谷 聰子	環境都市工学科5年 三田村 美菜
電子情報工学科5年 東 菜々花	物質工学科5年 丹羽 大和	環境都市工学科5年 宮下 育三
電子情報工学科5年 水野 弘汰	物質工学科5年 細井 遥和	環境都市工学科5年 山崎 更
電子情報工学科5年 宮本 結生	環境都市工学科5年 中村 優真	環境都市工学科5年 渡邊 駿介
物質工学科5年 有馬 魁兜	環境都市工学科5年 野尻 唯奈	

一般社団法人
福井県サッカー協会
創立75周年記念表彰
特別功労賞

サッカーチーム

奨励賞

1年間学業成績優秀者

機械工学科5年 石川 翔月	物質工学科5年 法邑 未来	物質工学科4年 柚田 心優	電子情報工学科3年 高見 凉平
機械工学科5年 大味 修也	物質工学科5年 松浦 奏登	物質工学科4年 橋本 凜太	電子情報工学科3年 横尾 優芽
機械工学科5年 勝木 獅堂	物質工学科5年 吉川 陽貴	物質工学科4年 濱島 友明	電子情報工学科3年 吉川 洋希
機械工学科5年 高嶋 賴輝	物質工学科5年 吉田 聰太	物質工学科4年 藤井 結希	電子情報工学科3年 若林 孝輝
機械工学科5年 堀 煙生	環境都市工学科5年 川越 璃々夢	物質工学科4年 藤輪 万莉	物質工学科3年 恵美 秋佑
機械工学科5年 前田 煙陽	環境都市工学科5年 斎藤 大雅	物質工学科4年 山本 航大朗	物質工学科3年 辻裏 二花
機械工学科5年 CHAN DING KHAI	環境都市工学科5年 清水 丈一郎	物質工学科4年 吉村 陽奈	物質工学科3年 橋本 らら
電気電子工学科5年 北嶋 祥弥	環境都市工学科5年 杉田 凉香	環境都市工学科4年 新井 葵々	物質工学科3年 森川 義仁
電気電子工学科5年 木谷 駿允	環境都市工学科5年 谷村 和奏	環境都市工学科4年 石田 誠一郎	環境都市工学科3年 金子 彩花
電気電子工学科5年 齊藤 翼	環境都市工学科5年 矢田 桃子	環境都市工学科4年 伊藤 颯志	環境都市工学科3年 谷口 三琴
電気電子工学科5年 橋本 瑞平	機械工学科4年 北村 和大	環境都市工学科4年 岩本 晃晴	環境都市工学科3年 玉木 湧
電気電子工学科5年 宮本 有莉	機械工学科4年 鈴木 豊矢	環境都市工学科4年 高橋 翔太	環境都市工学科3年 玉村 真優
電子情報工学科5年 東 凜太郎	機械工学科4年	環境都市工学科4年 中司 瑞希	環境都市工学科3年 中野 紗椰
電子情報工学科5年 岡本 篤舍	MUHAMMAD ALIM MUHAMIN BIN SALIM	環境都市工学科4年 西 一樹	環境都市工学科3年 中野 巴葵
電子情報工学科5年 渡邊 展匠	電気電子工学科4年 大江 真ノ介	環境都市工学科4年 丹羽 勇帆	環境都市工学科3年 山崎 音葉
物質工学科5年 穂吉 美颯	電気電子工学科4年 堤 虎牙	環境都市工学科4年 橋本 陽生	機械工学科2年 三品 康介
物質工学科5年 浅尾 空澄	電気電子工学科4年 中嶋 蒼	環境都市工学科4年 深見 祐太	電気電子工学科2年 田中 菜月
物質工学科5年 伊東 汎一	電気電子工学科4年 春田 真穂	環境都市工学科4年	電子情報工学科2年 鈴木 優奈
物質工学科5年 伊部 心鞠	電気電子工学科4年 松尾 太智	GANSUKH, NARANTUYA	電子情報工学科2年 山本 昊弥
物質工学科5年 加藤 咲姫	電子情報工学科4年 小坂 泰士	機械工学科3年 金森 衣乃里	物質工学科2年 田中 萌絵
物質工学科5年 竹下 航平	電子情報工学科4年 中西 翠海	機械工学科3年 小林 大豊	物質工学科2年 橋本 果歩
物質工学科5年 橋本 晃宏	電子情報工学科4年 南 裕翔	機械工学科3年 清水 薫琉	環境都市工学科2年 坂本 愛依
物質工学科5年 平田 りん太郎	電子情報工学科4年 山内 章悟	機械工学科3年 早瀬 賢志	環境都市工学科2年 寺澤 七美
物質工学科5年 藤田 耕輔	物質工学科4年 田中 美羽	電気電子工学科3年 荒谷 晃汰	環境都市工学科2年 横井 月香

TOEICにおいて成績優秀者

電気電子工学科5年 齊藤 翼	物質工学科5年 RAJESREE A/P SIVAKUMARAN
電気電子工学科5年 吉崎 央修	電子情報工学科4年 前田 隼男
電子情報工学科5年 小川 拓也	
電子情報工学科5年 篠 榎祐	

令和6年度起業家甲子園 企業賞

生産システム工学専攻1年 藤野間 奏人
電子情報工学科5年 岡本 篤舍
電子情報工学科5年 高橋 楓哉
電子情報工学科5年 渡邊 展匠

JICA国際協力中学生・高校生エッセイコンテスト 国内機関長賞

環境都市工学科4年 西 一樹

第15回建築甲子園 奨励賞

環境都市工学科3年 中野 巴葵

高専 GCON2024(第3回高専 GIRLS SDGs × Technology Contest)
ダイバーシティ&インクルージョン奨励賞

環境システム工学専攻2年 増田 悠雅 | 環境システム工学専攻2年 三池 遼香

部・同好会の紹介

部活動として体育部が18、文化部が8、同好会が12あり、幅広い分野で活発な活動が行なわれています。

体育部 陸上部



陸上部は、週4から5回、主に本校グラウンドで活動しています。外部コーチも加わり、個々人の種目に合わせて自由な雰囲気の中で活動しています。また、月に一度は部員全員が集合する全体練習もあります。上下関係は必要最低限、程よい距離感で個性が尊重される部活といえます。ただ、物足りなさを感じる人も……。そんな方々には上級生がその熱い思いに応えます！初心者も大歓迎！気楽に陸上を始めてみませんか？

指導教員 東 章弘、村中貴幸、松山哲士、小松丈紘

体育部 サッカーチーム



サッカーチームは、今年7月に開催された高専北信越大会において連覇を果たし、6年連続で全国大会への出場を達成しました。現在は高専全国大会での優勝を目指し、高専グラウンドや武生の人工芝グラウンドにて週5日、熱心に練習に励んでいます。日々の練習は厳しく、つらいと感じることもありますが、試合で勝利した瞬間の喜びがその苦しさを忘れさせてくれます。仲間とともに高みを目指し、充実した活動を続けています。

指導教員 佐々和洋、長水壽寛、蓑輪圭祐、野元昭宏

体育部 剣道部



剣道部は日々の稽古で技を磨き、仲間と共に全国高専大会出場を目指しています。他校との練習試合や大会にも積極的に参加し、実力を高めています。剣道に少しでも興味があれば、ぜひ一度見に来てください。

指導教員 中谷実伸、丸山晃生、堀川隼也、古谷昌大、高橋 優、大谷貞徳

文化部 モダンミュージック部



MMCは福井高専で部員数が最も多い活気のある部活です。主な活動として、高専祭や卒業ライブに向けての練習を日々しています。1年生から5年生まで縦のつながりが強く、音楽を通じて深い絆を築くことができます。

指導教員 蓑輪圭祐、森 貞

同好会 美術同好会



部員それぞれが自分の作品を制作する時間を共有しています。今年は越前市のイベント「ちんぶいぶいひらけゴマ」のポスターのイラストの制作も行いました。高専祭展示部門への出品も計画しています。

指導教員 井之上和代

同好会 アントレプレナーシップ同好会



社会課題の解決を目指し、起業家精神を育む同好会です。産学官との連携で学び、「技術×学び×社会実装」を通じ仲間と未来を創ります。

指導教員 小越咲子

その他の 部・同好会一覧

体育部門

- 卓球
- 男子バスケットボール
- 女子バスケットボール
- ラグビー
- 野球
- バレーボール
- バドミントン
- テニス
- ソフトテニス
- ハンドボール
- ソフトボール
- 少林寺拳法
- 水泳
- 合気道
- 軟式野球

文化部門

- 英語
- 吹奏楽
- 囲碁・将棋
- ロボット
- アマチュア無線研究会
- 放送・メディア研究会
- 建築構造デザイン

同好会

- 茶道
- サイエンスクラブ
- フットサル
- ダンス
- 音鍵研究会
- 折り紙
- コード
- プログラミング研究会
- 書道
- 文芸

本校に着任して



わくわくする方へ

電気電子工学科 小松 丈紘

8/27原稿執筆の依頼がきました。内容は「本校に着任して」。この類はすぐ取り掛かるに限ります。

9/24案の定、忘れていました。期限は来週。

電気電子工学科の小松丈紘です。今年の3月まで、民間企業に7年間勤めていました。縁もゆかりもない本校（高専出身ですらない）、てんで異なる専門分野（化学系出身）。わくわくしています。

わくわくには、かつて「恐怖や不安で心が騒ぎ、落ち着かないさま」をさす意味もあったようです。人生では幾度か重要な選択場面に出くわします。僕も其れなりに、経験してきました。その際の選択はわくわく度の高さ。ただ楽しそうなだけでなく、心が騒ぐかどうか。その道すがら、本校に出逢いました。みなさんもこれから多々選択の場面に出くわすでしょう。是非『わくわくする方へ』舵取りをしてみたら……。

よろしくお願ひいたします。



10年ぶりの“再”入学

電子情報工学科 木下 誠也

初めまして、またはお久しぶりです。本年4月に電子情報工学科の教員として着任しました。ちょうど10年前に電子情報工学科を卒業し、母校に教員1年生として「“再”入学」してまいりました。

久しぶりの福井高専ですが、学生みんなの姿は「やっぱり高専生だな～！」という好奇心と楽しさを持ち合わせた今も昔も変わらずの雰囲気を持ち合わせていますね。自由のある環境だからこそ育まれる創造力や精神力があります。これは福井高専ならではの魅力でもあると思います。

時に、「学生だから」という物言いをする大人もいます。しかしその言葉は逆手にとって欲しいなと思うのです。学生という立ち位置だからこそチャレンジできるチャンスが周りにはたくさん転がっています。学生の皆さんにはいろんなことに挑戦できる

高専生活を楽しんではほしいですし、私も負けず研究・教育に励みたいです。一緒に学び、成長しましょう！



自己紹介

一般科目教室 出口 鳴涼

4月から着任しました出口鳴涼です。日本近現代史を研究しています。大学入学時、歴史のことをたくさん知っている人が周りにとても多く、このまま4年間やっていけるのか不安になり、焦って歴史の勉強をしました。すると、点と点をつなげて歴史像を再構成していく歴史研究を楽しく感じるようになりました、歴史の勉強を苦に感じなくなりました。テストのための暗記よりも、歴史的な出来事・人物が自然と頭に入るようにになりました。

勉強や研究は、あるきっかけで突然楽しくなることもあります。また、焦りや不安、問題を解けなかつた時の悔しさ、反対になかなか解けなかつた問題が解けるようになった時の嬉しさといった気持ちは、勉強や研究をする上でとても大切です。そして、時には協力し、時には競争相手となるクラスや学科、研究室のメンバーの存在も、勉強や研究に欠かせません。仲間や気持ちを大切にしながら、かけがえのない学生生活を送ってください。



福井高専について 感じること

総務課長 植松 昌志

令和7年4月1日に着任しました植松と申します。私はこれまで5県8機関で働いてきました。それぞれ文化や考え方があり、勉強させられること、戸惑うこともあるのですが、そんな私が福井高専に感じる原因是、人間力の高さです（当然全員がそうではありませんが…）。大概?の機関はよそ者に対して閉鎖的で警戒心をもって接てくるのを感じるのですが、福井高専教職員および学生の皆さんには、しっかり自身の立場と周りの状況を理解し、そして他人を気遣って行動していると感じます。この前、体育祭の応援合戦の審査員をさせていただきましたが、1つのチー

ムは若気の至りを彷彿とさせるものでしたが、その外の4チームは、一人一人自分がチームのため何ができるかしっかり考え、チームを最優先にしている事が伝わる素晴らしい応援でした。優勝した黄組は、特に頭抜けていましたが、しっかり頭を黒色に染め直していれば流石!、で、あることを願っております。



福井高専に着任して

総務課契約係 出口 可奈子

11月1日付で総務課契約係に着任しました、出口と申します。係では教育・研究に必要な物品の発注や、備品の管理などを担当しております。学生さんと接する機会は少ないですが、キャンパスツアーで説明する姿など、皆さんとてもしっかりされていてすごいなと思います。

私の出身は石川県で、初めて住む福井県は自然が豊かだと感じます。それゆえクモが多い気もしますが、お花を見に行くのが楽しみになりました。桜、つつじ、花菖蒲など色々ありますが、一番印象深いのは花はす公園の蓮です。朝10時に行ったのにしおしおだったのが悔しくて、時間を早めてもう一度行ったところ、本当に綺麗で感動しました。来年も行きます。

まだまだ至らない点もあるかと思いますが、今後ともよろしくお願ひいたします。



本校に着任して

総務課プロジェクト支援係

田島 千鈴

4月1日付けで総務課プロジェクト支援係に着任しました、田島と申します。3月まで大学生をしていました。

ある先生の「分からなかったらとりあえずプロジェクト支援係へ…」という言葉に衝撃を受け、どんな恐ろしい業務を行っているのだろうとひやひやしていた4月のことを、今でも鮮明に覚えています。職員の皆さんから丁寧にご指導いただけるおかげで、業務に対する理解が深まり少しづつではあります、できることが増えてきました。

まだまだ分からぬことばかりでご迷惑をおかけすることがあるかと思いますが、1日でも早く皆さまのお役に立てるように努めてまいります。今後ともよろしくお願ひいたします。



成長

学生課教務係 山下 智大

今年度より、学生課教務係員として配属されました山下智大です。4月に入った当初は右も左もわからなかった自分がいますが、徐々に仕事にも慣れつつあり、自分自身少しは成長出来ているのではないかと感じています。メールでのやりとりや電話応対など例を挙げればキリがありませんが、自分にとっては全て新鮮な経験で何とか日々の職務に食らいついでいます。この私の成長というのもひとえに教職員の皆様の優しさあふれるご指導のお陰であるを感じておりますが、私はこの福井高専の職務を通じて仕事面だけでなく他の様々な面において成長したいと考えております。そのためにも、高専で過ごす日々の中で教職員、学生、様々な人の姿を見てあらゆることを貪欲に吸収したいです。幸運にも私の周りにはユーモアに富んだ方が多くおりますので、今年度に関してはまずユーモアを磨いて周囲を笑顔にしていきたいと思います。



着任のご挨拶

学生課学生生活係 看護師

前田 裕佳理

このたび、4月より保健室に着任いたしました前田と申します。これまで約20年間、看護師として医療機関や訪問看護ステーションなど、医療を中心とした現場で勤務してまいりました。「一度きりの人生、看護師としてさまざまな環境で経験を積み重ねてみたい」という思いから、本校で働かせていただく貴重な機会を頂きました。着任から半年が経ち、日々初めてのことばかりで戸惑うことも多くあります、その都度、教職員の方々にご指導頂き、学生たちの若さとエネルギーに触れながら、充実した日々を過ごしております。心より感謝申し上げます。

今後も、看護師として常に心がけている「相手の立場に立って考える」という姿勢を大切にしながら、学生一人ひとりの心と体の悩みに寄り添い、少しでも力になれるよう努めてまいります。どうぞよろしくお願ひいたします。

令和7年度 学校行事写真



新入生オリエンテーション



新入生歓迎会



学生表彰



舞鶴高専との交歓試合①



舞鶴高専との交歓試合②



いじめ防止講演会



選挙に関する講演会



球技大会



服育講演



北陸地区高専体育大会①



北陸地区高専体育大会②



北陸地区高専体育大会③



交通講話



ロボコン①



ロボコン②

編集後記

今年は例年以上に暑い夏でした。そして長く気温の高い秋が、本稿を書いている今まさに、終わろうとしています。小職が着任してから1年半が経ち、あっという間に過ぎた心地です。今年の高専祭では昨年初めて受け持った卒研生が遊びに来てくれました。高専祭にはこのように卒業生が集まる絶好の機会にもなっており、本当にうれしい限りです。来年も皆さん元気に開催して頂けることを心より願っております。(野元)

青武台だより

独立行政法人国立高等専門学校機構 福井工業高等専門学校
発行日：令和7年11月25日

福井工業高等専門学校

〒916-8507 福井県鯖江市下司町

TEL : 0778-62-1111

お問い合わせ